

市長のあつあつ情報

No.10

にぎわいと安心の道の駅を目指して

皆さんは、ゴールデンウィークはいかがお過ごしでしたか？

私は、プライベートで道の駅をいくつか回ってきました。まず茨城県の「常総」に伺いました。当駅は、インターチェンジに近接しており、周りには物流センターやイチゴのビニールハウスもあります。まさに産業と交流の拠点になっています。連休中ということもあり、駐車場に入る渋滞に巻き込まれるほどの大盛況でありました。ようやく中に入りますと、道の駅施設の他に民間の施設が2つあり、非常に相乗効果を感じました。

また、内房にあります「保田小学校」や「グリーンファーム館山」、有料道路の休憩施設として「道の駅 富楽里とみやま」と一体で作られた施設「ハイウェイオアシス富楽里」にも伺いましたが、それぞれに独自のコンセプトが見え、いずれも大変な

集客でにぎわっておりました。

本市では今年度、道の駅基本構想策定のための委託費を予算化しており、本市を取り巻く道路ネットワークの向上や成田空港拡張に伴う経済的な効果をしつかりとキャッチすることができるよう取り組んでまいります。また、フェーズフリーの観点からも、万が一災害が発生した際に外部から応援等に参集していただける各種団体の待機所となる場所の確保など、防災拠点としての役割も考慮してまいりたいと考えております。

建設にあたって整備すべき基本的なものは、駐車場やトイレ等の休憩施設、情報発信設備、地域連携施設があります。それ以外の附帯設備に関しては、民間企業の皆さまに参入していただくことで、地域の皆さまの需要、そしてインバウンドをしつかりキャッチできるような施設



茂原市長 いちはら 市原 あつし 淳

「今月の1枚」



▲テレビ番組の撮影で食べた「黒アヒージョ」

整備を図ってまいりたいと考えております。これまでの視察等であらためて感じたのは、目指すべきコンセプトをしつかりと持ち、事業を行うこと、市場ニーズをしつかりと反映させること、そしてこうしたところを的確に分析することが必要だということです。本市だけにとどまらず、外房地域への案内や物品販売なども通して、外房のハブになるような交流拠点道の駅を目指します。